

群馬県議会 リベラル群馬

街頭演説900日
県政の革命児!

県議会だより

後藤かつみ

vol.20

発行 リベラル群馬 後藤かつみ事務所
住所 高崎市八幡町800-24
TEL&FAX 027-343-1393
e-mail ccrgoto@af.wakwak.com
http://www.ccrgoto.com/

健全財政をギリギリ堅持 新分野へ重点投資

健全財政をギリギリ堅持

6,654億円に上るH24年度予算が可決しました。リベラル群馬は、県民の皆様の貴重な税金を1円たりとも無駄にしない立場から厳しく予算案を手エックしてきました。

財政の健全度という視点から見ると、財政調整基金などの「貯金」を大きく取り崩す苦しい財政運営が続いていることは事実です。しかし、栃木や茨城などの近県が大幅な歳出増をする中、本県は前年度比0.7%減に歳出を抑えるなどの財政努力により、通常債(県が責任を負う借金)削減を288億円削減しており、厳しいながらも健全財政を堅持したことは評価できます。

新成長分野への重点投資に評価

リベラル群馬も強く提言してきた新成長分野への重点投資についても一定の評価ができる内容です。新エネルギー分野では、H27年までに太陽光発電量を2.8倍に増やす目標値を打ち出し、家庭用太陽光パネルへの補助として8億円(1万軒分)を計上するなど、思い切った推進策を打ち出

していることは評価できます。一方で雇用対策については、県の看板政策である若者就職支援センター(ジョブカフェ)の強化が図られるなど、一定の評価ができます。が、県独自の施策としては若干寂しい内容であることは否めません。

議会改革の動向

議会基本条例で何が変わる?

今議会において、議会提案による「議会基本条例」が可決されました。「議会基本条例」とは、H18年に北海道栗山町の議会において、議会の改革・活性化を目指して制定されて以来、これまで250程の自治体議会でも制定されています。これに追随する形で、群馬県議会でも制定に向け1年間議論を重ねてきました。リベラル群馬は、条例を作ることは大いに結構ですが、条例を作るのが目的になってしまいう「仏作って魂入れず」という事態にはならないというスタンスです。

リベラル群馬としては、未だ実現していない改革課題である「常任委員会・特別委員会の議事録公開」を条例に盛り込み、議会の透明度を高めるべきと主張してききましたが、残念ながら自民党の強い反対により盛り込まれませんでした。結果、条例の文章そのものは立派ですが、「条例を作ったものの何が変わるの?」と指摘されかねない中身となっています。リベラル群馬は、条例案が上程された本会議の中で、来年度の議会の中で「常任委員会・特別委員会の議事録公開(透明化)」を前提に改革議論を始めるべきと強く主張し、自民党も議論に応じると答弁しました。条例を「意味のある」ものにするためにも、これからの「魂を入れる」ための議論が大切になります。

リベラル群馬の提言が どう予算に反映されたか

1. 雇用

若者就職支援センター(ジョブカフェ)の体制強化(子育て女性用コーナー新設等) 1億円

2. 新成長分野への重点投資

- 住宅用太陽光パネル補助 8億円(1万戸分)
- 小水力発電導入推進 1,500万円
- 木質バイオマス施設整備 6,800万円

3. 福祉・医療

- 特別養護老人ホーム整備 7億円
(増設170床、老朽化改修50床)
- がん対策 1億円
・ がん拠点病院機能強化(日高病院等を指定)
- ・ がん検診受診率50%達成戦略 1,000万円

4. 将来に負担を残さない健全財政の維持

- 通常債残高 7,295億円(288億円削減)
- 実質プライマリーバランス 409億円の黒字
(黒字幅が大きいほど健全な財政運営)

「数の力」で海外視察再開

過去にマスコミ等からの批判を受けて中止となっていた「海外視察」の再開が、リベラル群馬や若手議員の会派の反対を自民・公明が押し切る形で決定しました。当面は、新たな費用負担を行わず、新聞等でも批判的なトーンで報じられているとあり、県民目線から見れば「議員特権の復活」と受け止められかねないのは事実です。

「数の力」とはいえ、実施が決まった以上、視察目的や内容に厳正を期し、県民への説明責任を果たせる中身にするよう、議会在外において厳しく目を光らせ、後藤自身も襟を正すしかありません。

県議の海外視察再開へ

尾瀬の環境保護調査や新設委員会の議事録公開の透明度を高めるべきと主張してききましたが、残念ながら自民党の強い反対により盛り込まれませんでした。結果、条例の文章そのものは立派ですが、「条例を作ったものの何が変わるの?」と指摘されかねない中身となっています。リベラル群馬は、条例案が上程された本会議の中で、来年度の議会の中で「常任委員会・特別委員会の議事録公開(透明化)」を前提に改革議論を始めるべきと強く主張し、自民党も議論に応じると答弁しました。条例を「意味のある」ものにするためにも、これからの「魂を入れる」ための議論が大切になります。

3月16日
朝日新聞
より抜粋